

科目名	日本語・コミュニケーション専門セミナー（異文化コミュニケーション論）Ⅱ						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	外国語学部	配当年次	3年次	単位数	2単位
教員名	川久保 明日香						

授業概要／Course outline

多様な文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションが日常化しています。この授業では文化による言語行動の差異を学習します。特に、日本語教育の教材を分析し、日本語学習者が円滑な対人関係を維持しつつ目的を達成するための実践的な練習法を話し合っていきます。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

演習

・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション）

5～7人でのグループディスカッションやグループワークを用いて授業を行う。また、授業で取り上げたテーマに沿い、グループでプレゼンテーションを行う。

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

オンデマンド授業はmoodleで行う。内容に関する質問はメールまたはTEAMSで受け付ける。

・実務経験のある教員による授業

大学機関での日本語教育実務経験を活かして、日本語教育や日本語学の知識や教授法なども解説する。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 学期のスケジュールおよび授業の概要、イントロダクション

スケジュールやシラバスを確認し、この授業での到達目標や身に着く力などについて説明する。

現代社会と異文化コミュニケーションについて学習を行う。

★オンデマンド テーマ：年間スケジュールとイントロダクション

授業のスケジュールを確認したあと、異文化交流の歴史や文化の氷山モデルなどの基本的な用語について解説を行う。約45分の動画を4月30日までにMoodleで配信する。

第2回 異文化トレーニング

「異文化トレーニング」のうち、ケーススタディーやロールプレイ、シミュレーションを経験する。この経験をもとに、日本語学習者が異文化に接したときに、教師の立場からどのような活動を行えばいいかを考える。

第3回 教科書分析とインターアクション

インターアクション中心に作られた日本語教材とcan-doに基づいた日本語教材とを比較し、近年の日本語教育で求められている異文化コミュニケーション能力の概要を学ぶ。

第4回 言語コミュニケーション(1)（「学習成果実感調査」実施予定）

日本語教育現場で用いられている教科書を用い、「自己紹介」「話しかける」という接触場面に必要な社会文化や社会言語をグループで分析し、話し合う。

第5回 言語コミュニケーション(2)

日本語教育現場で用いられている教科書を用い、「誘いかた、断りかた」という接触場面に必要な社会文化や社会言語をグループで分析し、話し合う。

第6回 言語コミュニケーション(3)

日本語教育現場で用いられている教科書を用い、「謝りかた」という接触場面に必要な社会文化や社会言語をグループで分析し、話し合う。

第7回 非言語コミュニケーション(1)

非言語コードである「年齢」と「時間」を取り上げる。これらの観念が文化間でどのような誤解や摩擦が起こすのかを考え、その誤解や摩擦を解決するために日本語学習者にどのような練習や活動をさせるかを話し合い、発表する。

第8回 非言語コミュニケーション(2)

「教育」を取り上げる。教育制度や教育、習い事、語学教育などへの国や親、子どもの考え方が文化間でどのような誤解や摩擦が起こすのかを考え、その誤解や摩擦を解決するためにどのような活動をさせるかを話し合い、発表する。

第9回 非言語コミュニケーション(3)

近年取り上げられることが多い「ハラスメント」を取り上げる。その中でも「見るハラ」、服装など外見から起こる誤解や摩擦だけではなく、「パワハラ」や「カスハラ」など学生の身近で起こりうる問題まで幅広く取り上げ、その誤解や摩擦を解決するために日本語学習者にどのような練習や活動をさせるかを話し合い、発表する。

第10回 非言語コミュニケーション(4)

「恋愛」を取り上げる。白書や新聞、ビデオなどから近年の晩婚化や少子化、恋愛観を共有し、恋愛に対する考え方が国だけでなく、性差、年齢差でどのように異なるかを話し合い、発表する。

★オンデマンド テーマ：発表の手法を学ぶ

グループ発表に向けて、発表やプレゼンの手法を補足解説をまとめた約45分の動画を6月30日までにmoodleにアップする。

第11回 プレゼンテーション準備(1)

グループに分かれ、前回までの授業で取り上げた話題の中から一つ選び、発表準備を行う。テーマを選び、資料を集め、アンケート調査のやり方と予想を立てる。

第12回 プレゼンテーション準備(2)

グループに分かれ、前回までの授業で取り上げた話題の中から一つ選び、発表準備を行う。テーマに沿ったアンケートを作成し、調査と結果をまとめる。

第13回 プレゼンテーション準備(3)

グループに分かれ、前回までの授業で取り上げた話題の中から一つ選び、発表準備を行う。テーマに沿ったアンケート調査結果をもとに、結論をまとめ、発表資料を作成する。

第14回 プレゼンテーションと期末試験（教員－学生間の対話」実施予定）

グループによる発表後、ルーブリックを活用した自己、他己評価を行う。また、今学期で取り上げた内容に関する試験も行う。

事前・事後学修／Preparation and assignments

第1回：学期のスケジュールおよび授業の概要、イントロダクション

【事前学修】 シラバスをよく読み、授業内容の概略を理解しておくこと。

【事後学修】 授業内容を復習し、ポイントを確認し、オンデマンドを視聴する。

★オンデマンド テーマ：多文化共生社会について

【事前学修】 異文化交流の歴史や氷山モデルを調べておくこと

【事後学修】 わかりにくい部分があれば見返すこと

第2回：異文化トレーニング

【事前学修】 Moodleに配布されているプリントを読み、授業内容を理解しておくこと。

【事後学修】 配布資料やノートをまとめ、次回までに復習しておく。

第3回：教科書分析とインターアクション

【事前学修】 Moodleに配布されているプリントを読み、授業内容を理解しておくこと。

【事後学修】 配布資料やノートをまとめ、次回までに復習しておく。

第4回：言語コミュニケーション(1)

【事前学修】 Moodleに配布されているプリントを読み、授業内容を理解しておくこと。

【事後学修】 ディスカッションやグループワークの内容をまとめ、次回までに復習しておく

第5回：言語コミュニケーション(2)

【事前学修】 前回用いた資料を再度確認し、授業内容を理解しておくこと。

【事後学修】 配布資料やノートをまとめ、次回までに復習しておく。

第6回：言語コミュニケーション(3)

【事前学修】 Moodleに配布されているプリントを読み、授業内容を理解しておくこと。

【事後学修】 ディスカッションやグループワークの内容をまとめ、次回までに復習しておく

第7回：非言語コミュニケーション(1)

【事前学修】 前回用いた資料を再度確認し、授業内容を理解しておくこと。

【事後学修】 配布資料やノートをまとめ、次回までに復習しておく。

第8回：非言語コミュニケーション(2)

【事前学修】 Moodleに配布されているプリントを読み、授業内容を理解しておくこと。

【事後学修】 配布資料やノートをまとめ、次回までに復習しておく。

第9回：非言語コミュニケーション(3)

【事前学修】 Moodleに配布されているプリントを読み、授業内容を理解しておくこと。

【事後学修】 配布資料やノートをまとめ、次回までに復習しておく。

第10回：非言語コミュニケーション(4)

【事前学修】 Moodleに配布されているプリントを読み、授業内容を理解しておくこと。

【事後学修】 配布資料やノートをまとめ、次回までに復習し、オンデマンドを視聴する。

★オンデマンド テーマ：発表の手法を学ぶ

【事前学修】 配布された発表の手法についてのプリントを読んでおくこと

【事後学修】 わかりにくい部分があれば見返すこと

第11回：プレゼンテーション準備(1)

【事前学修】 前回用いた資料を再度確認し、発表のテーマを考えておく。

【事後学修】 発表のためにどのような資料が必要かを考え、準備する。

第12回：プレゼンテーション準備(2)

〔事前学修〕 資料をまとめ、発表の準備をする。

〔事後学修〕 発表のための資料の確認と準備を行う。

第13回：プレゼンテーション準備(3)

〔事前学修〕 資料をまとめ、発表の準備をする。

〔事後学修〕 発表に向け、再度資料の確認を行う。

第14回：プレゼンテーションと期末試験

〔事前学修〕 発表資料の確認をする。

〔事後学修〕 発表を通して学んだ内容をまとめる。

※各授業に対する事前・事後学修は約180分を目安とし、合計で2,700分程度とする。

上記内容を確認して、事前・事後学修を行うこと。

授業の到達目標／Expected outcome

- ・ 日常のさまざまな状況で起こりうる文化的背景の違いに気づき、広範な視野と多種多様な価値観を学ぶ。
- ・ グループディスカッションやグループワークを通じ、論理的思考力（課題発見力・総合的判断力）を身に付け、コミュニケーション能力を高める。
- ・ 実際の場面でのインターアクションを学び、誤解や摩擦を乗り越える方法について10分間で他者に説明することができる。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- | | |
|-------|--------------------|
| ・ 思考力 | 専門知識・専門技能 |
| ・ 主体性 | 【外国語学部 アジア言語学科】 |
| ・ 創造性 | ・ 異文化理解 |
| | ・ 言語に関わる調査・研究・発信能力 |

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・ 質問は積極的にすること。質問は授業後、メール、TEAMSで受け付ける。
- ・ 他の日本語教員養成コースの科目も受講していることが望ましい。
- ・ 遅刻3回は欠席1回に相当するものとし、出席回数が全講義の2/3に達しない場合、評価は「/（出席日数不足）」とする。
- ・ 受講態度が目には余ると教員が判断した場合は減点の対象とする。

評価方法／Evaluation

平常点（授業への参加度）40%、発表40%、最終試験20%

教 材／Text and materials

授業で使うテキストは随時配布する。

質問や相談の方法／Instructor contact

授業外での質問、相談などは、初回授業時に連絡するメールアドレス、TEAMSのチャットにて随時受け付ける。